

外国人雇用の状況について
(ハローワークの求職・就職・求人状況)

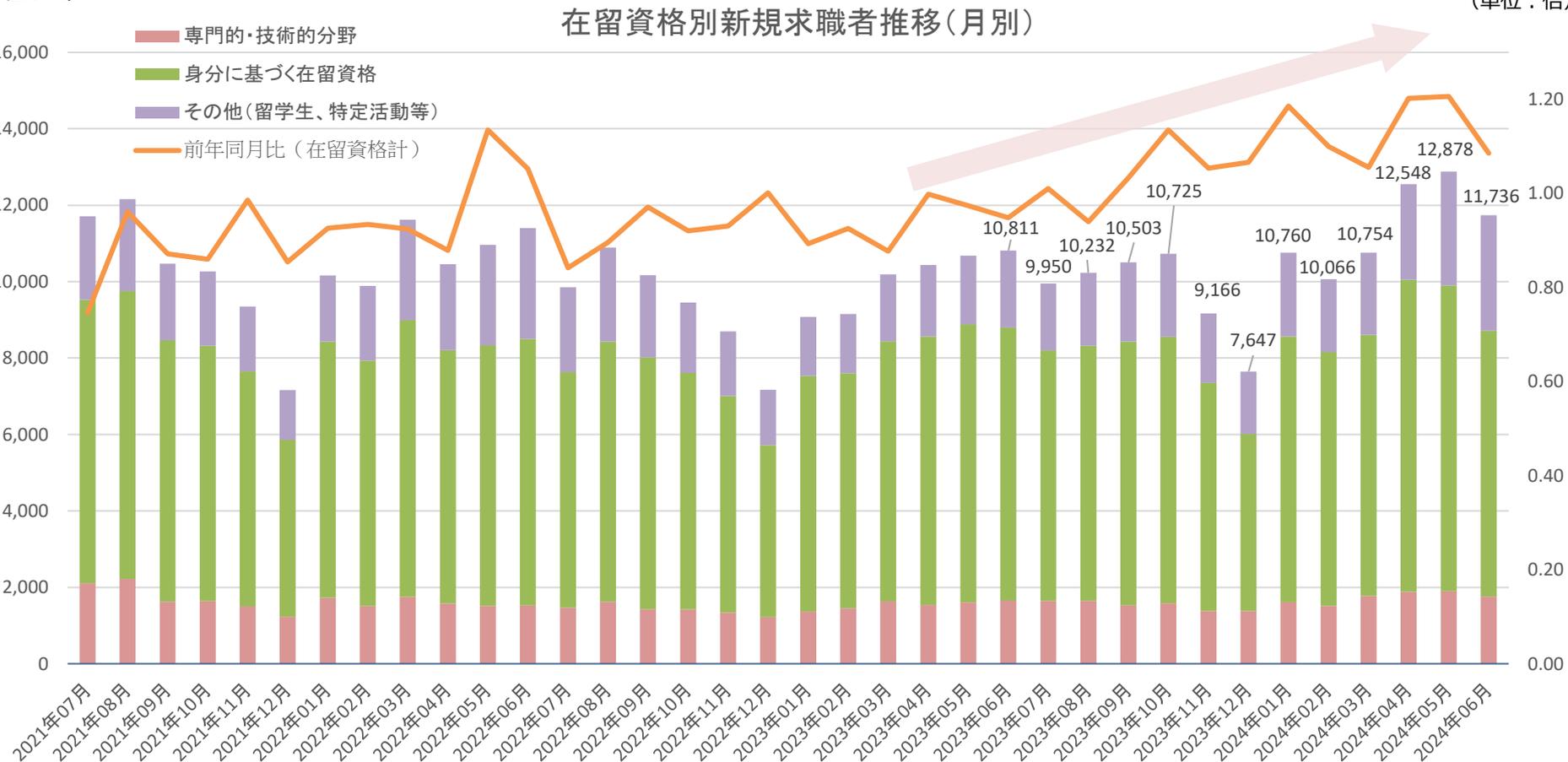
外国人求職者の分析

ハローワークにおける外国人新規求職者数の推移

- ハローワークにおける各月の外国人新規求職者数（在留資格計）は、2022年から1万人程度で推移していたが、2023年後半から若干の微増に転じており、直近（2024年6月）では11,736人となっている。
- 求職者のうち、身分に基づく在留資格（永住者、日本人配偶者等、定住者等）が大部分を占めている。

(単位：人)

(単位：倍)

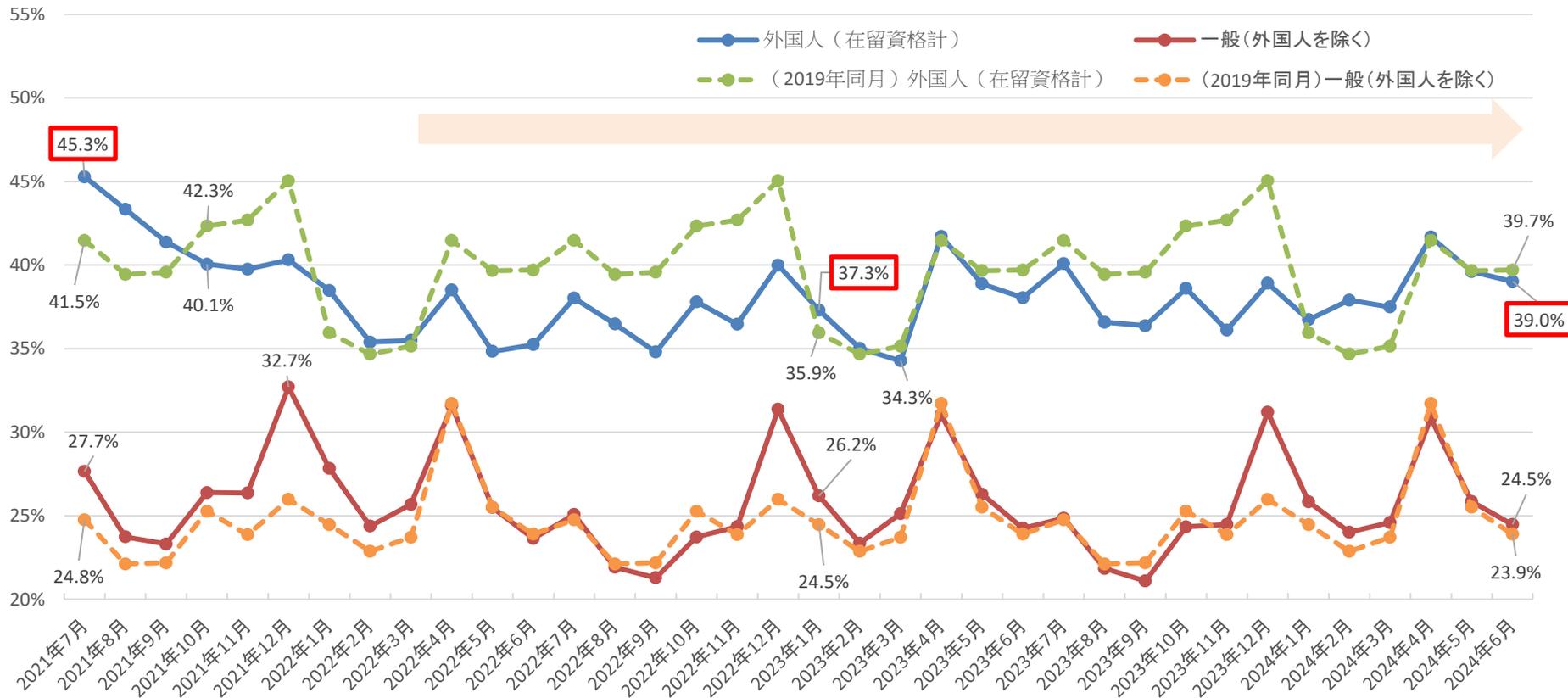


(出典) ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計(全国計)

外国人の非自発的離職の割合の推移（在留資格計）

- ハローワークの**新規求職者**（在職中を除く。）における**非自発的な離職の割合**を分析。
- 外国人の非自発的離職の割合は、減少を続けていたが2021年10月に初めて2019年同月の離職率を下回った。その後も概ね同様の傾向が継続している。
- 直近の3ヶ月（2024年4月～6月）では、ほぼ2019年同月の水準と並んでいる。
- ※ 新型コロナウイルス感染症流行以前との比較の観点から2019年との比較を掲載している。（次項以降も同様）

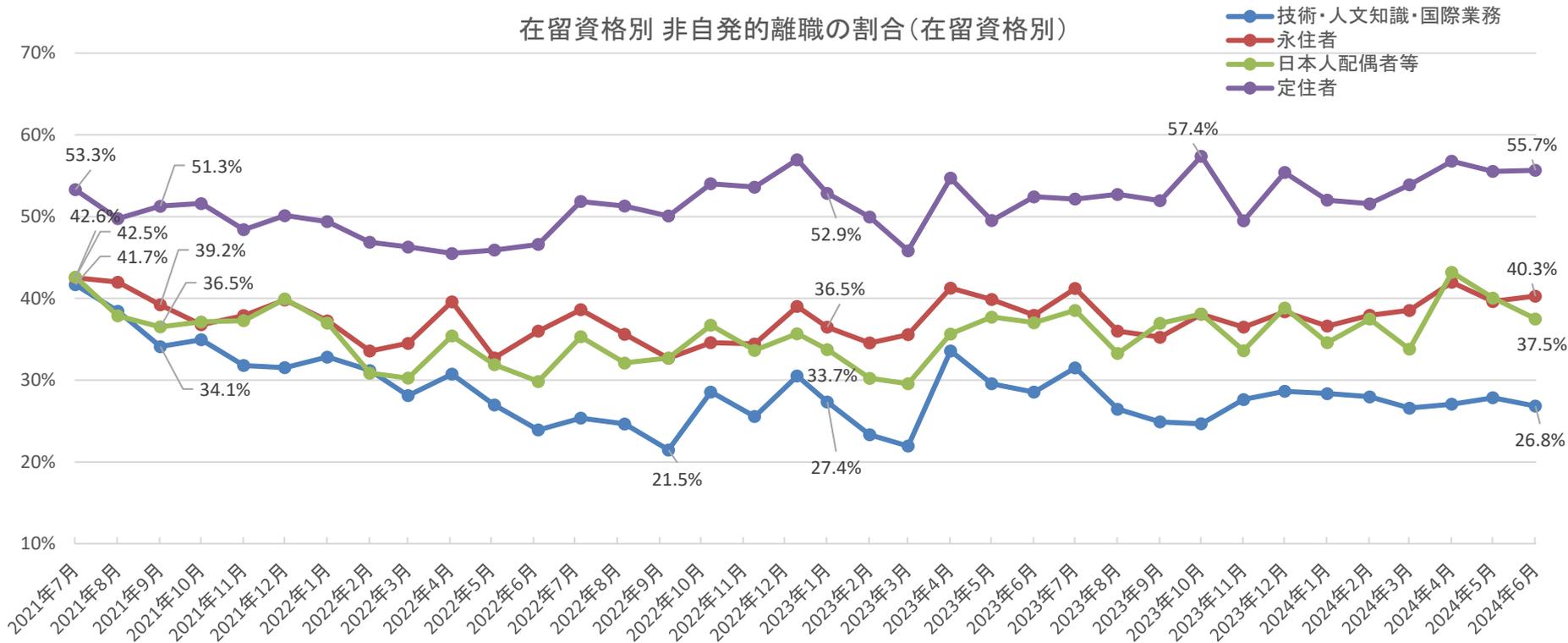
一般・外国人別 非自発的離職の割合（新規求職者）



（出典）ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計（全国計）

外国人の非自発的離職の割合の推移（在留資格別）

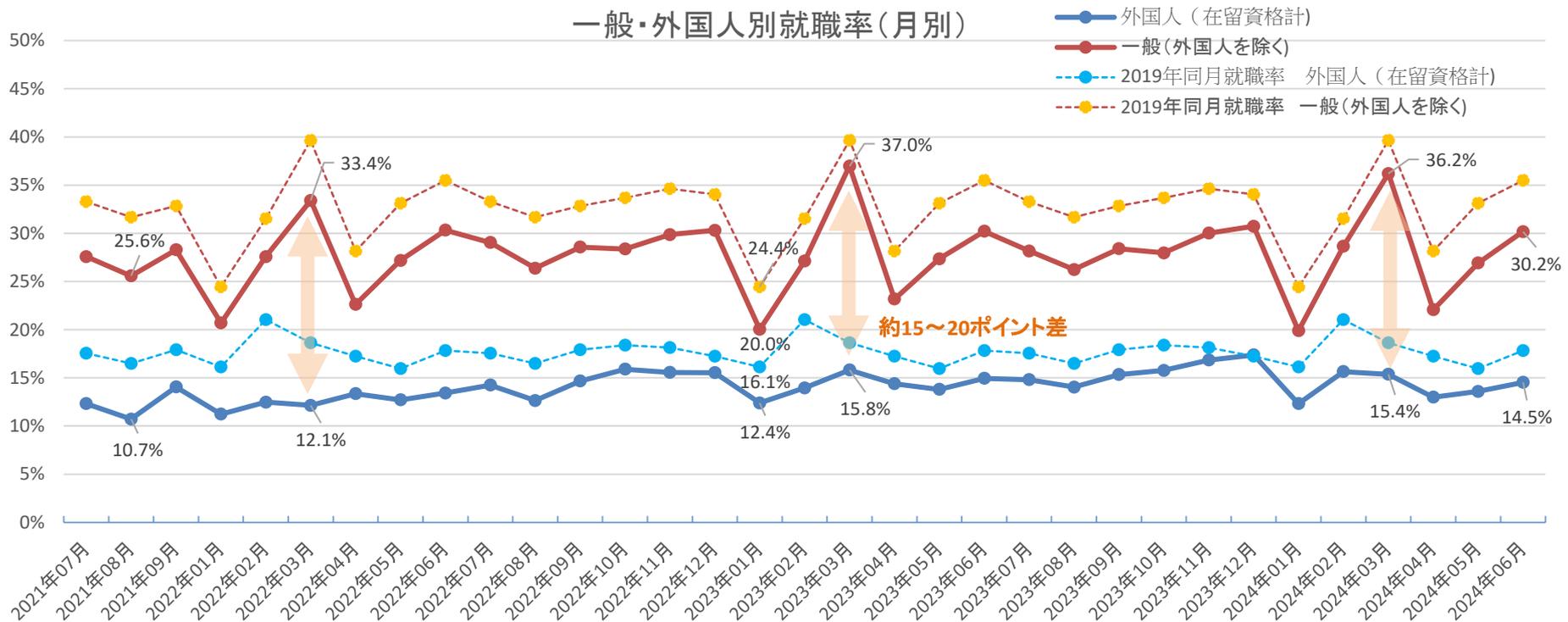
- ハローワークの新規求職者（在職中を除く。）における非自発的な離職の割合を在留資格別に分析。
- 身分に基づく在留資格（永住者、日本人配偶者等、定住者）については、トレンドはほぼ一致しているが、在留資格により非自発的な離職の割合には差があり、定住者の割合が最も高い。
- 技術・人文知識・国際業務については、2022年2月以降、身分に基づく在留資格より低い水準となっている。



（出典）ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計（全国計）

ハローワークにおける一般・外国人の就職率の推移

- 一般（外国人を除く）の就職率※は、2019年と比べて3～6ポイント程度下回る水準で推移している。
- 外国人（在留資格計）の就職率は、2021年8月に10.7%となって以降、徐々に持ち直し、微増傾向にある。
- 外国人（在留資格計）の就職率は、日本人と比較しておおむね15～20ポイント程度低い水準で推移している。
- ※ 月間のハローワークにおける就職者数を同一月間の新規求職者で除した値。



（出典）ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計（全国計）

外国人向け求人分析

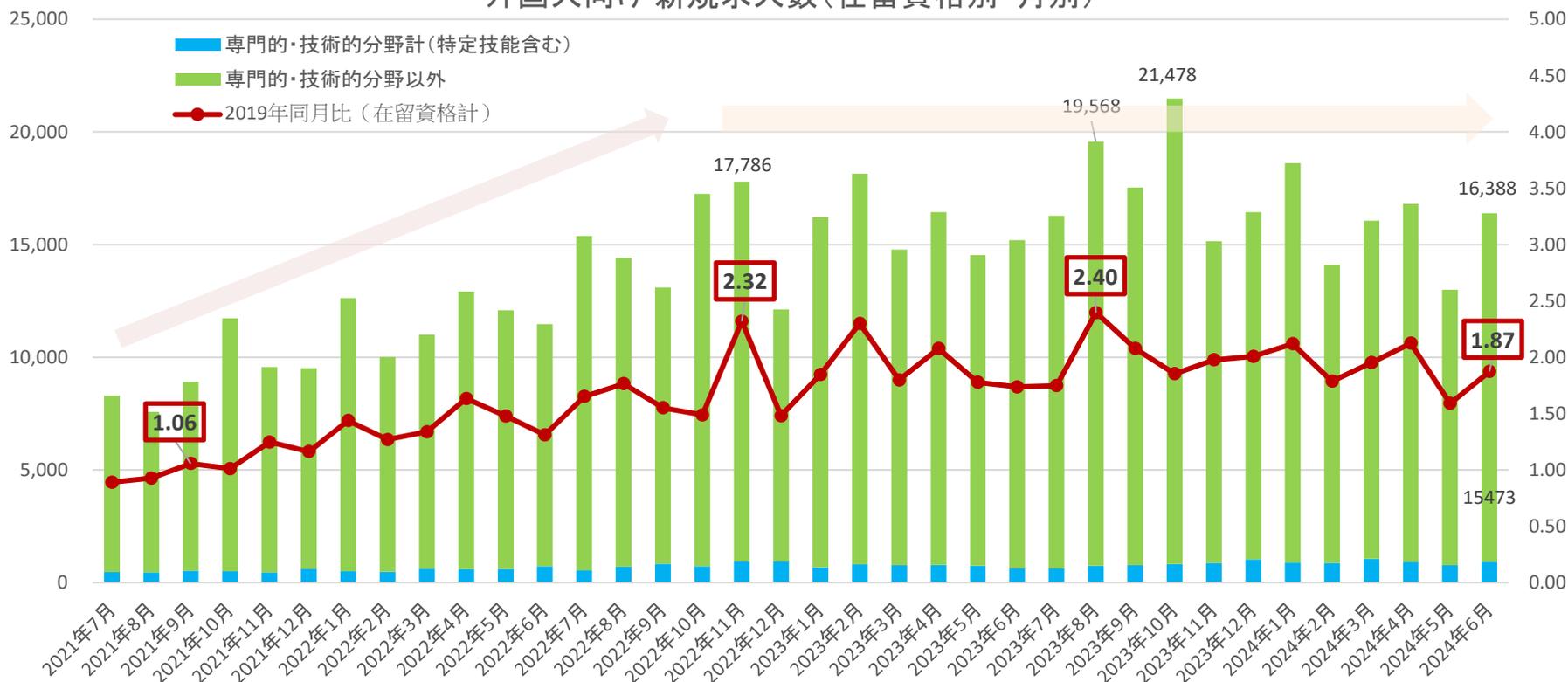
ハローワークにおける外国人向け新規求人数の推移

- ハローワークにおける**外国人向け新規求人数(在留資格計)**※は、2019年を上回る水準で推移しており、2023年10月には2万人を突破した。直近では横ばい傾向にある。
- **新規求人数の9割以上は、専門的・技術的分野以外の在留資格（永住者、日本人配偶者等、定住者等）**が占めている。
- ※ 求人受理時に明示的に外国人向けであることを把握した求人。なお、外国人への職業紹介にあたっては、外国人向け求人だけでは不足するため、一般向けの求人から外国人の就職の可能性のあるものを積極的に把握し、紹介している。

(単位：人)

外国人向け 新規求人数(在留資格別・月別)

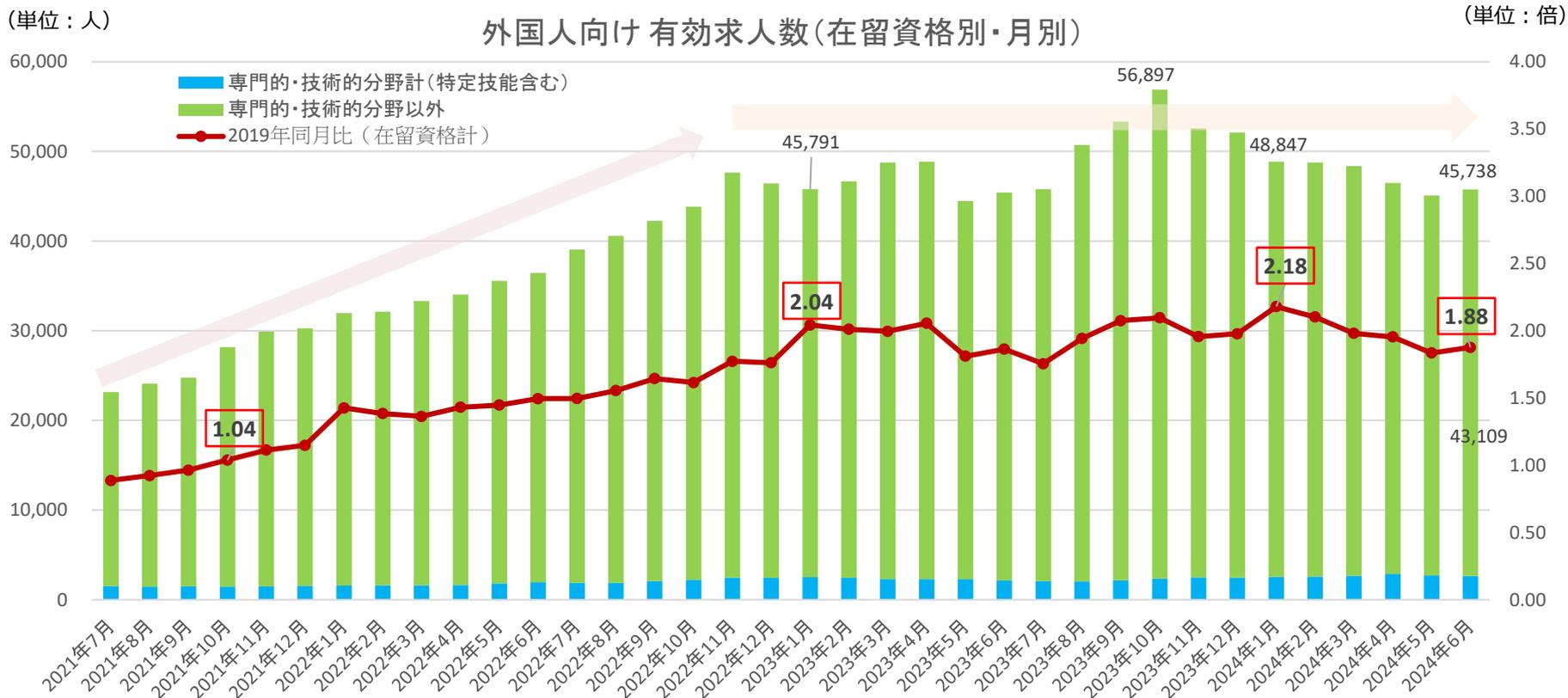
(単位：倍)



(出典) ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計(全国計)

ハローワークにおける外国人向け有効求人数の推移

- ハローワークにおける**外国人向け有効求人数(在留資格計)**※は、2019年を上回る水準で推移しており、2023年8月には5万人を突破した。直近では横ばい傾向にある。
- **有効求人数の9割以上は、専門的・技術的分野以外の在留資格（永住者、日本人配偶者等、定住者等）**が占めている。
- ※ 求人受理時に明示的に外国人向けであることを把握した求人。なお、外国人への職業紹介にあたっては、外国人向け求人だけでは不足するため、一般向けの求人から外国人の就職の可能性のあるものを積極的に把握し、紹介している。



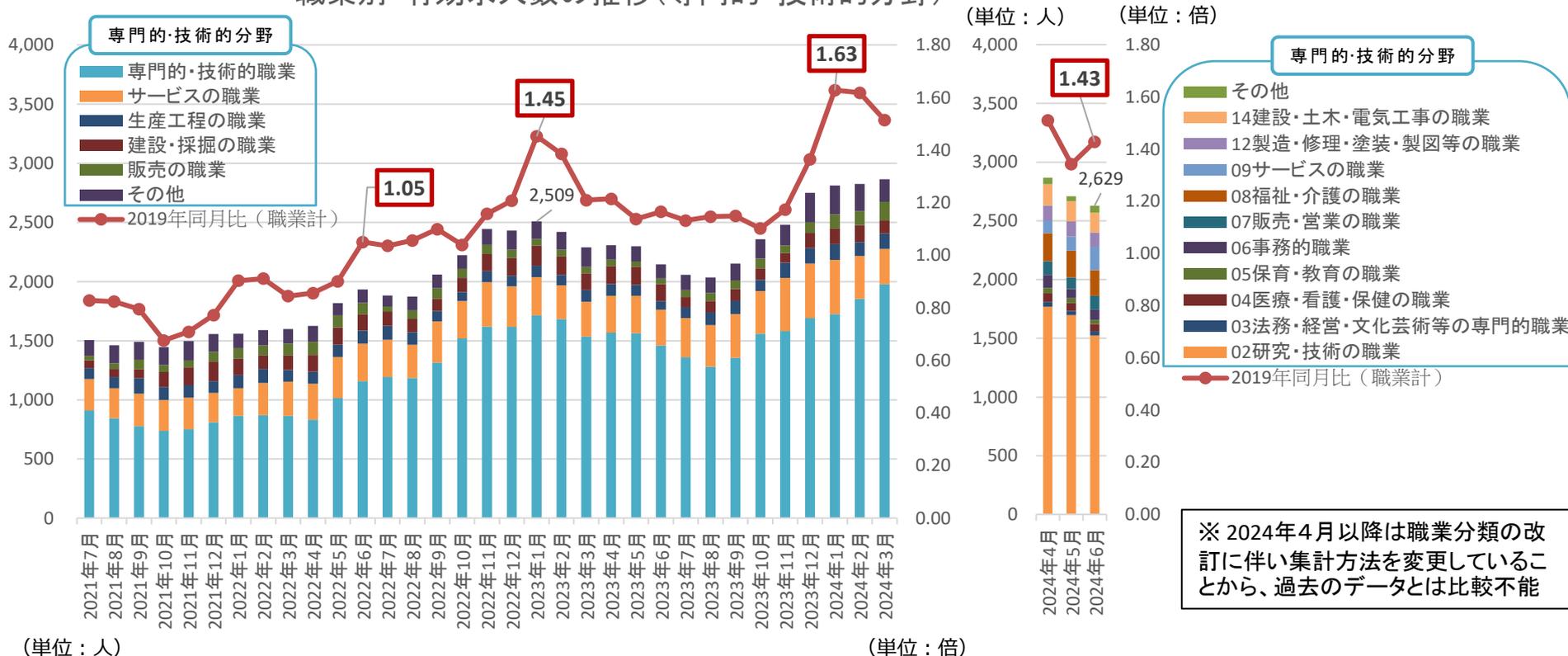
(出典) ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計(全国計)

ハローワークにおける職業別の有効求人数の推移（在留資格別）

- 専門的・技術的分野の有効求人数※は、2022年6月には2019年同月と同水準まで回復し、その後増加傾向が続き、2023年1月には2019年同月比で1.45倍まで回復し、2024年1月には1.63倍の最高値を記録した。直近（2024年6月）では2019年同月比で1.43倍となった。

※ 求人受理時に明示的に外国人（専門的・技術的分野の在留資格を有する者）向けであることを把握した求人。なお、外国人への職業紹介にあたっては、外国人向け求人だけでは不足するため、一般向けの求人から外国人の就職の可能性のあるものを積極的に把握し、紹介している。なお、2024年4月からは、新職業分類で集計している。

職業別・有効求人数の推移（専門的・技術的分野）



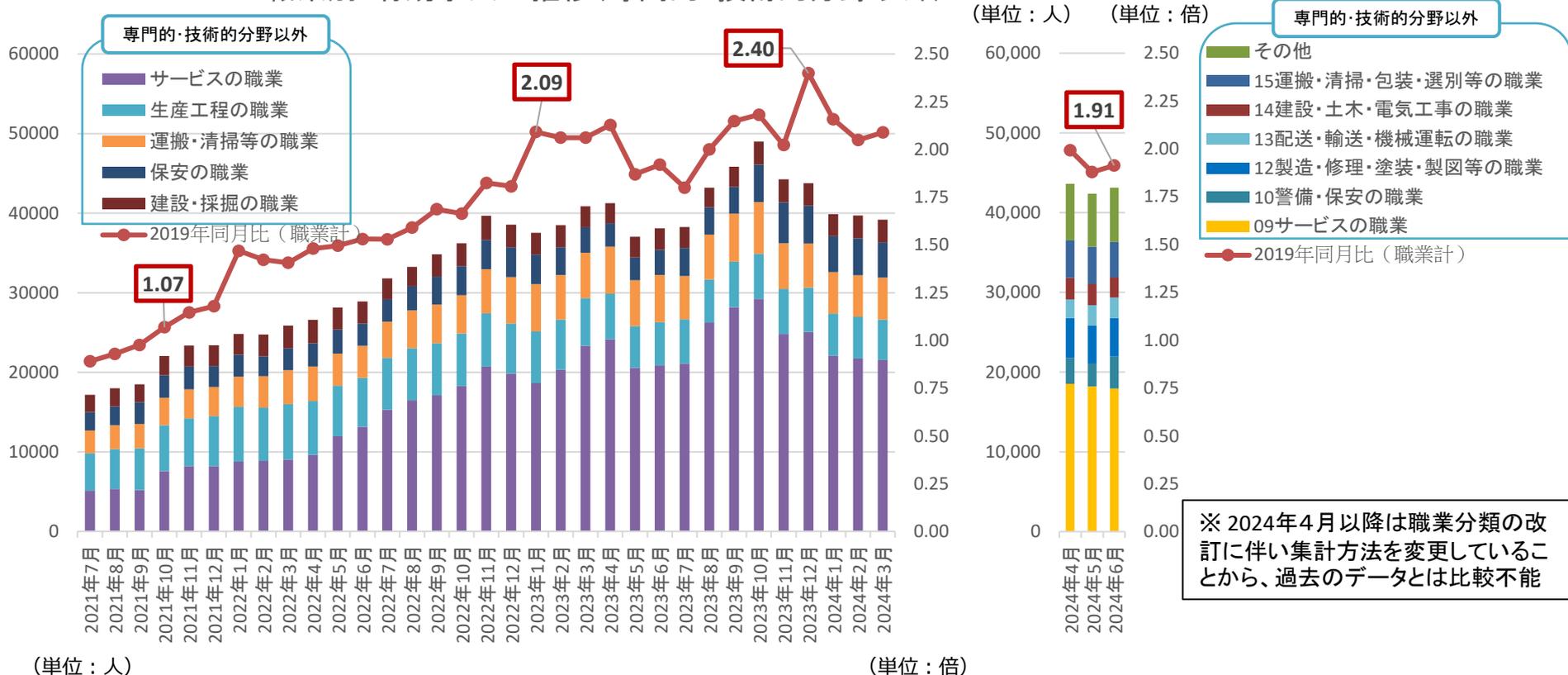
（出典）ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計（全国計）

ハローワークにおける職業別の有効求人数の推移（在留資格別）

- 専門的・技術的分野以外の有効求人[※]は、2021年10月には2019年同月と同水準まで回復し、その後増加傾向が続
き、2023年1月には2019年同月比で2.09倍まで回復し、2023年12月には2.40倍の最高値を記録した。
直近（2024年6月）では2019年同月比で1.91倍となった。

※ 求人受理時に明示的に外国人（専門的・技術的分野の在留資格を有する者）向けであることを把握した求人。なお、外国人への職業紹介にあたっては、外国人向け求人だけでは不足するため、一般向けの求人から外国人の就職の可能性のあるものを積極的に把握し、紹介している。なお、2024年4月からは、新職業分類で集計している。

職業別・有効求人推移（専門的・技術的分野以外）

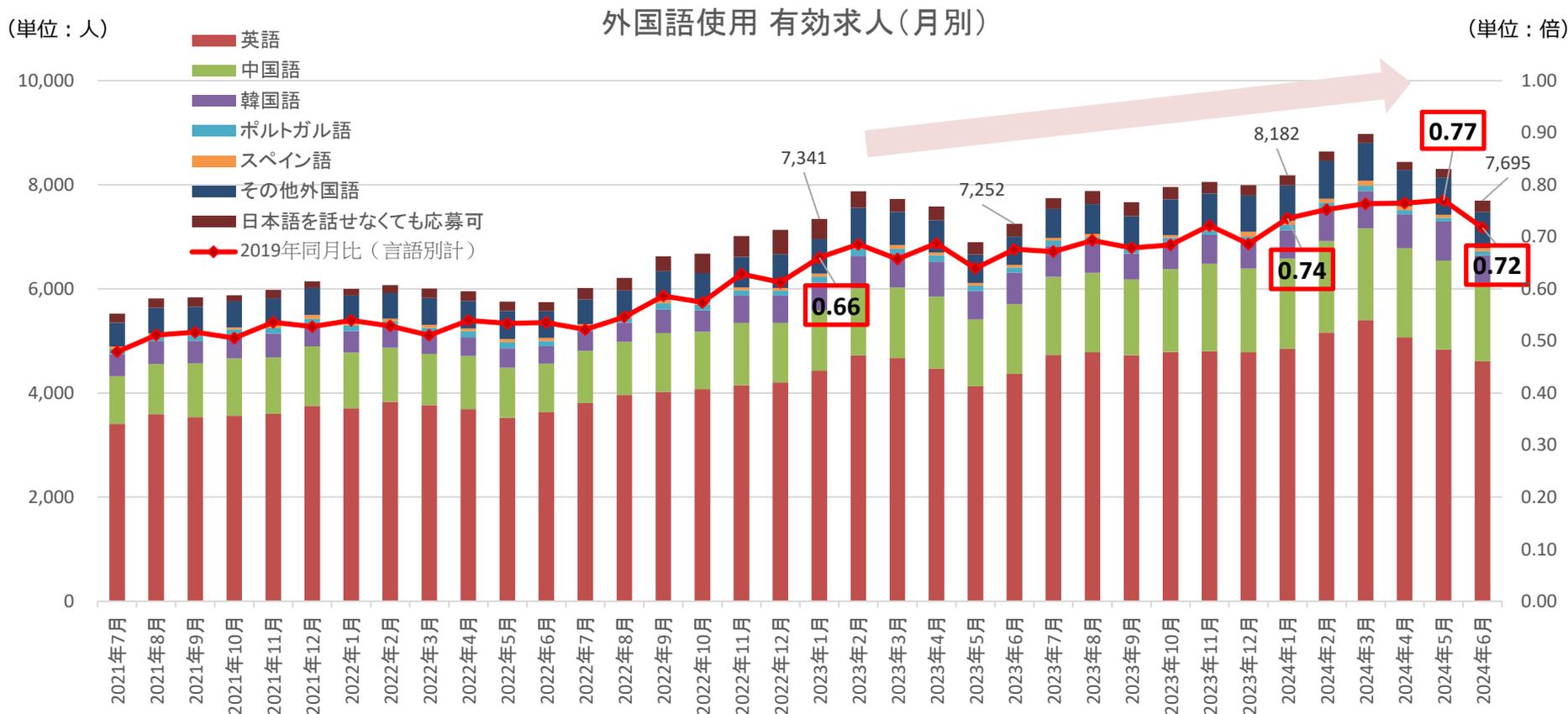


（出典）ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計（全国計）

ハローワークにおける外国語使用有効求人数の推移

○ ハローワークにおける**外国語使用有効求人数**※は、徐々に回復し2023年1月には2019年同月比で6割まで回復し、その後も、緩やかに持ち直しているが、現在も2019年同月と比較すると7割程度の水準にとどまる。

※ 求人受理時に明示的に業務で外国語を使用することを把握した求人。

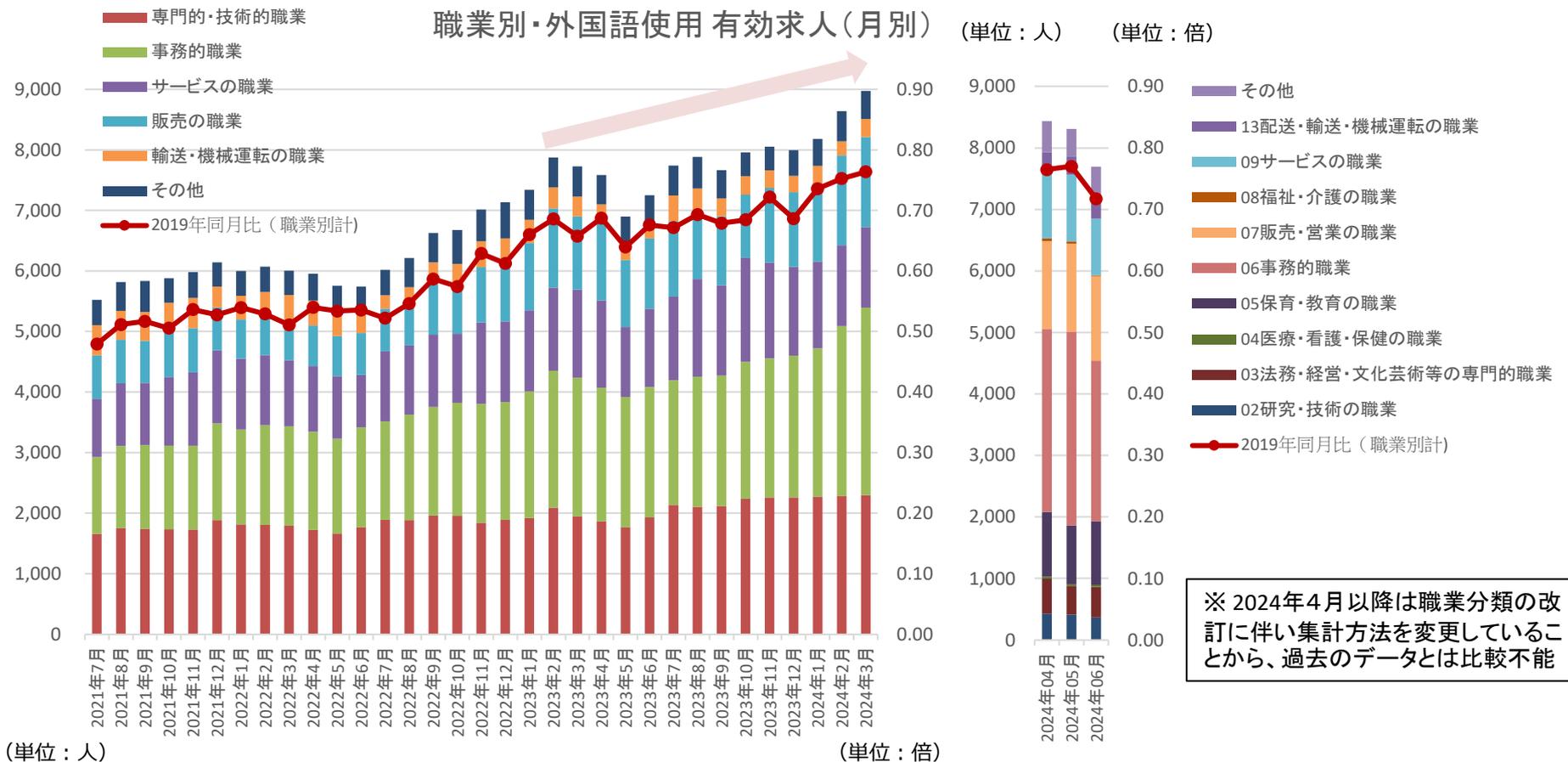


(出典) ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計 (全国計)

ハローワークにおける外国語使用有効求人数の推移

○ 外国語使用有効求人数の職業別では、**2022年6月以降**、特に**インバウンドに関わるサービスの職業、販売の職業の増加**が大きい。

※ 求人受理時に明示的に業務で外国語を使用することを把握した求人。なお、2024年4月からは、新職業分類で集計している。



(出典) ハローワークシステムから抽出したデータを特別に集計 (全国計)